

小諸市動物園再整備基本計画 概要版

令和2年1月 小 諸 市

1 小諸市動物園再整備の基本的な考え方

小諸市動物園将来構想の基本目標や方向性を踏まえ、再整備の基本的な考え方を以下に掲げます。

(1) 地域の宝・地域の資源を有効活用した、活気あふれる動物園

- ・様々な施設や団体とも連携しながら魅力を発信し、出会いや交流を育む場
- ・官民連携により様々な取組を創出する場
- ・来園者も動物になった気分で楽しめる場の創出

(2) 人と動物にやさしい動物園

- ・動物福祉に配慮した飼育展示環境の構築
- ・動物の生態・行動が楽しく観察できる展示の導入
- ・敷地特性を生かした適切な空間ゾーニングと展示配置
- ・敷地規模・飼育展示環境等を踏まえた適切な種・数の設定
- ・安全面に配慮した快適で来園者にやさしい利用環境

(3) これまでの実績を活かす動物とのふれあいを重視した動物園

- ・動物とのふれあいや学ぶ機会の充実
- ・飼育員が寄り添い来園者と動物とのふれあいをサポート

(4) 自然環境を守り心豊かな人を育む動物園

- ・身近な動物たちを通じた環境保全の大切さを伝える取組
- ・環境教育や市民協働の取組の実施

(5) 持続可能な動物園

- ・将来的に動物園を安定的に維持していくための適正な運営体制と健全な経営
- ・財源と飼育動物の状況に合わせた柔軟な整備
- ・多様な方法による整備資金の確保

2 再整備の方針

基本的な考え方を踏まえ、再整備の軸となる方針を設定します。

(1) 喫緊で再整備が必要な施設を最優先で整備

- ・天候に左右されずに快適に利用できる環境づくり
- ・フンボルトペンギンの快適な飼育展示環境の創出
- ・第1段階整備以降は、財政状況等や動物の異動を見ながら長期的な視点で効率的、段階的な整備を行う

(2) これまでの活動や地域性を活かした空間展開

- ・子どもも大人も楽しく動物たちとふれあえる場の充実
- ・小諸に暮らす野生動物との出会いの場の充実

(3) 動物も人も楽しく快適に過ごせる環境づくり

- ・シカ谷も活用した広がりのある動物園空間の展開
- ・動物がのびのびと過ごせるパドックの創出
- ・来園者が楽しく快適に動物に出会える誰にもやさしい環境の提供
- ・安全な環境で効率よく管理運営ができるゾーニングと施設構成

3 土地利用計画

土地利用計画は、再整備の方針により以下の項目を配慮し設定します。

- 再整備では現況敷地以外にシカ谷も活用
- 長期的な視点での段階的整備
- 各段階でも再整備の効果があり、利用に支障のない空間づくり

- 有料・無料エリアの設定
- 独立崖とシカ谷の造成による土地利用

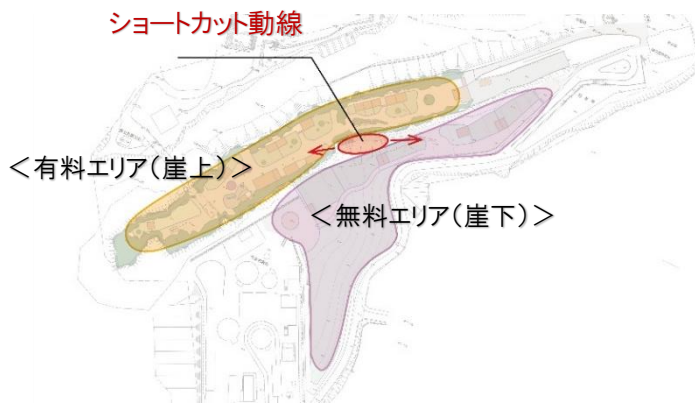


図1 有料・無料エリアの設置

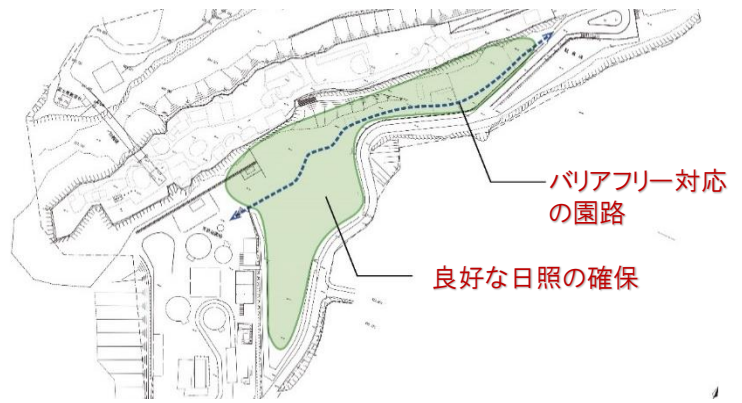


図2 独立崖とシカ谷の造成による土地利用

4 展示テーマ

小さな愛玩動物や人の生活との関わりが深い家畜動物とのふれあい、小諸に暮らす身近な野生動物たちとの出会いを通じて命を育む自然の大切さを楽しく学んでもらえるように、以下の展示テーマを設定します。

動物たちとのふれあい・出会いを通じ学びに広げる

5 ゾーニング計画

展示テーマに沿って、各ゾーンのテーマと配置を設定します。

○ふれあい動物ゾーン ～動物愛護・情操教育～

- ・動物に興味を持ち、命の大切さについて学び、自然環境の保全、人と動物の関係について考える最初のきっかけの場となる動物との多様なふれあいの場を、コンパクトにまとめて配置
- ・崖上の有料エリアに配置し、先行してふれあい施設やフンボルトペンギン展示施設を整備することを踏まえ、既存展示動物の移動に支障なく施工が可能な白鶴橋東側を中心に展開

○身近な里山の動物ゾーン ～地域の自然への理解～

- ・小諸の里山に生息している身近な野生動物について、環境エンリッチメントを取り入れた多様な手法で紹介
- ・小諸ならではの地域性をアピールするゾーンであり、細やかな飼育管理が必要となることから崖上の有料エリアに配置

○家畜ふれあいゾーン ～動物と人との関わり～

- ・人の生活との関わりが深い家畜を放牧飼育して、子どもから大人まで楽しめる、のどかな牧歌的な風景を創出
- ・無料エリアのシカ谷に沿って配置し、各パドックの広さを十分確保して、家畜ならではののんびりした開放感ある空間を展開

○エントランスゾーン ～動物との出会いの玄関口～

- ・入園ゲートと合わせてエントランス広場を配置し、レクチャーや離合集散の場を確保するとともに、これから動物と出会うワクワクする期待感を演出
- ・崖上・崖下双方の入ロゲートに付随して配置し、レクチャーや離合集散が可能なゆとりのある空間を確保

○ゆったり休憩ゾーン ～のんびり動物園を楽しむ～

- ・適度に休憩しながら動物との出会い・ふれあいが楽しめるように、お弁当を広げたり、眺望を楽しんだり、ほっと一息休憩できる、居心地の良い空間・広場を創出
- ・崖上・崖下双方に配置し、崖上は眺望が楽しめる白鶴橋西側の崖先端部に設置、崖下は利便性を考慮し家畜ふれあいゾーン・アスレチックゾーン・遊園地の交点に設置

○アスレチックゾーン ～動物になった気分で元気に遊ぶ～

- ・動物になった気分で遊べるアスレチックや多様な遊具やオブジェ等を配置し、楽しく体験できる空間
- ・崖下の家畜ふれあいゾーンと遊園地をつなぐエリアに配置し、動物園・遊園地の一体利用を促進

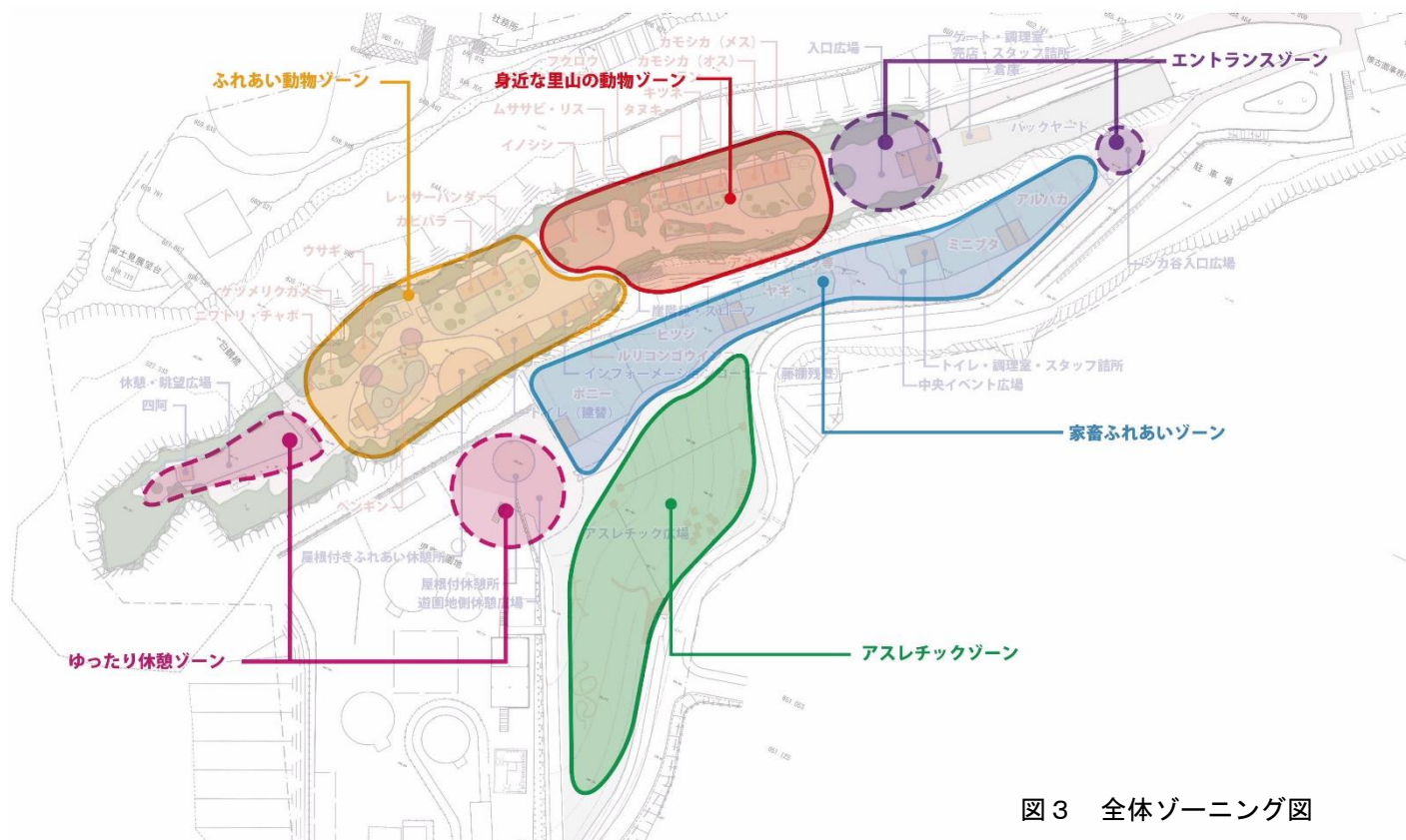


図3 全体ゾーニング図

6 コレクションプランの方針

飼育動物のコレクションプランは、以下の基本的な考え方を基に設定します。

コレクションプランの基本的な考え方

- 動物園再整備の基本的考え方・展示テーマに沿った種による構成
- 飼育ノウハウが活用でき、人員体制や費用負担に支障なく対応できる種を選定
- 世界の野生動物および鳥類系は、自然滅及び他園への移譲を模索

コレクションプランの設定

飼育動物のコレクションプランは、基本的な考え方、ゾーニング毎の考え方に基づくとともに、以下の点に考慮し選定します。

① ふれあい動物

＜現行飼育種を主体にこれまでの飼育ノウハウが活用できる種を設定＞

- ・ふれあい動物は、飼育体制やコスト等を踏まえ、飼育ノウハウを有する現行の愛玩動物を軸に構成します。
- ・また、来園者に人気の高い現行飼育種のフンボルトペンギンに加え、人気があり飼育が比較的容易で入手しやすい新たな種の導入を検討します。

② 身近な里山の動物

＜小諸に棲む野生動物は安定的に入手しやすく現行飼育体制で対応可能な種を設定＞

- ・小諸の生物多様性の高さを象徴する大型から小型までの多様な動物のうち、既に飼育している種、比較的飼育が容易で現行体制でも対応可能な種、野生動物と人間のあるべき関係を考えることが課題となっている種から選定します。
- ・傷病鳥獣保護で既に受け入れているムササビ、チョウゲンボウ、フクロウは、継続して飼育展示していきます。
- ・シカ谷で飼育中のヤクシカについては、小諸に棲む野生動物を優先するため、他園等との交換や移譲を模索することとします。

③ 家畜

＜現行飼育種を主体に人気のある種の新規導入も検討＞

- ・現行飼育種であるポニー、ミニブタ、ヒツジ、ヤギに加え、ユーモラスで人気が高く集客力のある家畜の導入を検討します。

7 優先して整備するエリアの検討

喫緊で再整備が必要な施設として、国の地方創生推進交付金を活用してふれあい休憩所（全天候型）とフンボルトペンギン展示施設を整備します。

○ 休憩スペースを中心にペンギン展示施設、モルモットふれあいスペースを計画

休憩スペースをペンギンふれあいエリアとモルモットふれあいエリアに隣接して配置し、親が近くで子どもを見守れるように配慮した計画とします。

○ 広がりのある南側にペンギン展示施設を計画

ペンギン展示施設を整備対象エリアの中でも、敷地の広がりがある南西側にまとめて計画します。アイランド型のパドック形状とし、両側に園路を配置します。それにより、様々な角度からペンギン展示を楽しめる演出空間とし、同時に多数の来園者が観覧できる計画とします。

○ 将来のサービス拠点として利便性の高い位置にふれあい休憩所を計画

将来的に整備するトイレやインフォメーションセンター等のサービス施設の配置を考慮して、全体として利便性を高めます。休憩スペースとふれあいスペースをまとめて計画することで、様々なイベントに対応できるように計画します。

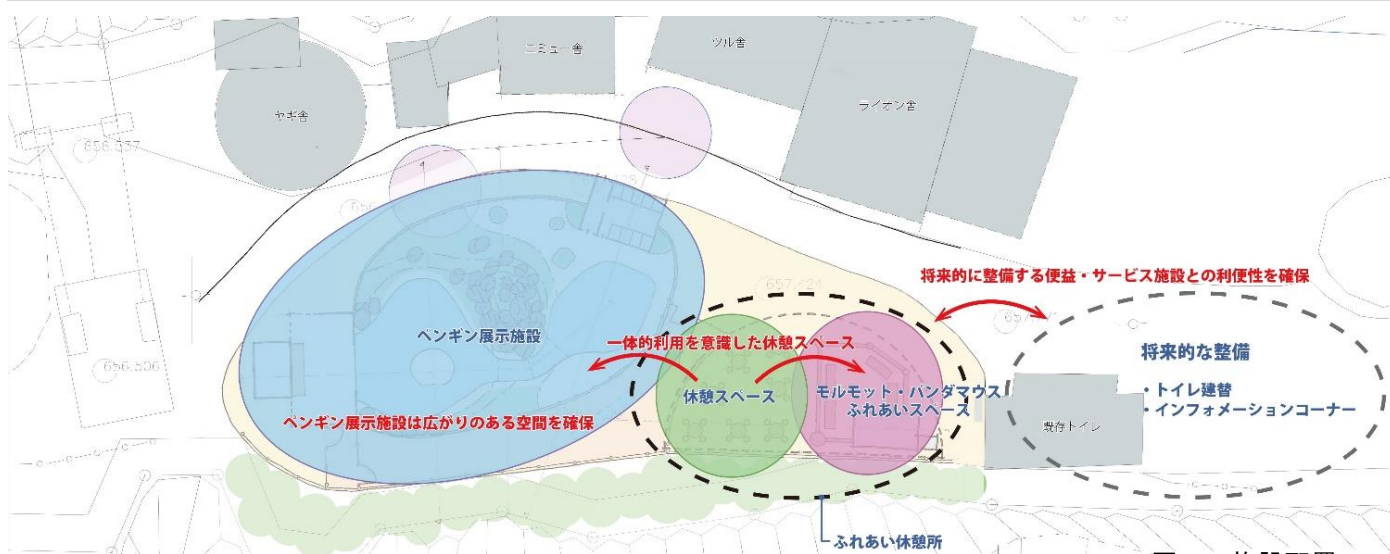


図4 施設配置

8 管理運営計画

動物園を将来にわたって安定的に経営していくためには、動物園の役割を確実に果たしていくための組織体制と、この体制をバックアップしていく多様な支援・取り組みが不可欠です。そのため、今後も飼育員のスキルアップも含めた組織体制の強化を図っていくとともに、特に市民・地域と一体になった管理運営体制づくりに努め、動物や来園者に良好な環境の維持、環境教育や種の保存、情報発信等の活動に積極的に取り組み、動物園の一層の魅力向上を図っていきます。

安定的な管理運営体制づくり

(1) 管理運営体制づくり

- ・高い技術を持った人材の育成
- ・多様な寄附・支援制度の導入

(2) 市民・地域との連携

- ・ボランティア等による市民参加
- ・民間活力の導入

管理運営の主な取り組み

○ 良好な動物園環境の提供

動物福祉、飼育作業性等への配慮 等

○ 環境教育

展示観覧、プログラム体験 等

○ 種の保存

飼育繁殖の取り組み 等

○ イベント等による集客

地域団体等との連携強化 等

○ 情報発信

S N S 等で最新情報の発信 等